

# 米子水鳥公園

## レンジャー通信

水鳥公園の指導員(レンジャー)によるさまざまな活動をご紹介します。

米子水鳥公園 (☎24-6139、FAX24-6140)



### くちばしの模様でヘラサギを個体識別

野鳥に足環などの目印(標識)をつけて、他の鳥と見分けることを個体識別といいます。個体識別には目印が欠かせませんが、くわしく観察・記録することで、目印をつけなくても野鳥を個体識別できることがあります。

水鳥公園には、毎年春と秋にヘラサギという珍しい鳥が飛来します。ヘラサギはくちばしの細かい模様が写真に写るほどまで、ネイチャーセンターの目の前にやってくることがあります。

そこで、過去に撮った写真を比較してみると、くちばしの模様で個体識別ができることに気づきました。そして、



今年の3月に飛来したヘラサギの香川さん

2016年の3月以降、毎年春と秋に同じ個体が飛来していることも分かりました。

さらに、水鳥公園のヘラサギの新聞記事を見た香川県の方から、その個体が毎年香川で越冬している個体と同じではないかという情報提供があり、その通りであることが分かりました。



個体識別のカギになるくちばしの模様(香川さん)

水鳥公園では、この個体に親しみを込めて「香川さん」と呼ぶことにしました。香川さんは、今年の春も3月12日に香川県から水鳥公園にやってきて、3月23日まで滞在しました。秋の渡りでも元気な姿を見せてくれることを期待しています。

米子水鳥公園主任指導員 桐原 佳介

## 美術館通信

常設(コレクション)展Ⅱ 鳥取県ミュージアムネットワーク連携事業

### 生誕100年記念「杵島 隆：不滅のパイオニア精神(スピリット)」

会期 ~ 11月29日(日)【水曜日休館】

米子市大篠津町出身の写真家・杵島隆[1920-2011]は戦後の約5年間、植田正治に師事しました。その指導のもと、身の回りにテーマを探した杵島は写真雑誌の月例コンテストに作品を応募すると、たちまち入選を重ねました。意を決して1953年秋、32歳にして上京した杵島は、広告制作会社「ライトパブリシティ」に入社し専属カメラマンとなります。その翌年、洗濯洗剤の新聞広告として第3回朝日広告賞を受賞したのが本作です。洗濯されたシートと2枚のセーターがふわりと風になびき、爽やかで気持ちの良いイメージを喚起しています。

日本における広告写真の<sup>パイオニア</sup>開拓者として、またライフワークであった鮮やかな蘭の作品などで知られる杵島の生誕100年を記念した本展では、米子市美術館と鳥取県立博物館のコレクションを中心に、その仕事を紹介します。

米子市美術館 (☎34-2424、FAX33-0679)



杵島隆《モノゲン》1954年 米子市美術館蔵